東大阪

発行所
株式会社 東大阪新聞社
第6926号
〒577-0802
東大阪市小阪本町 1-1-7
エフエスビル２Ｆ
TEL 06-6720-4601
FAX 06-6720-4603

八尾柏原支社
〒581-0013
八尾市山本町南 6-2-29
TEL 072-926-5134
FAX 072-921-6893

東大阪・八尾
柏原の地域紙

東大阪市文化創造館 安全祈願祭

鍬入れ式をする野田義和東大阪市長（左）と西田和彦東大阪市議会議長

東大阪市では、旧市民会館および旧文化会館の機能を集約し、中核市・東大阪市のシンボルにふさわしい、文化芸術の創造と発信の拠点となる東大阪市文化創造館の整備を進めている。平成31年9月、近鉄八戸ノ里駅北すぐの旧中央病院跡地（東大阪市御厨南2）にオープン予定。

完成まで安全に工事が進むよう、9月1日午前11時より安全祈願祭が執り行われ、野田義和東大阪市長、西田和彦東大阪市議会議長、株式会社佐藤総合計画の関野宏行取締役、株式会社大林組の鶴田信夫専務執行役員ら関係者約150人が集った。

同館には、すぐれた音響空間と上質な鑑賞環境を備えた1、500席の大ホールと300席の小ホール、市民の文化活動や会議、研修など各種用途に利用できる創造支援室等を20室設ける予定。また、誰でも気楽に使えるカフェレストランを併設する。

完成を楽しみにする市民が多い。また、音楽関係者らは大きな期待を寄せている。

平成31年9月 オープン

八尾に本格寄席誕生
喜楽亭（きらくてい） 柿落とし公演

八尾市に天満天神・繁昌亭に次ぐ常打ち寄席「喜楽亭」が誕生した。8月27日にプレオープンを開催し、翌週の9月3日に賑々しく柿落とし公演が催行された。

お祝いの花束をもらう中川政雄さん（左）

座席数は70席、プレオープン・柿落とし公演ともにチケットは完売し、会場はお祝いムードの熱気で溢れかえった。

喜楽亭を設立したのは元八光信用金庫常務理事の中川政雄さん（75）。現在はNPO法人お笑い研究会プロデューサーとして、講演・著作活動に多忙な毎日だが、好きが高じていに本格寄席を作り、席亭にまでなってしまった。

平成元年、八光信金・山本支店での中川さんと矢野宗宏さん（関西大学・落語研究会出身）の出会いが、喜楽亭設立に繋がっていった。

喜楽亭の「名誉席亭」はお笑い界のレジェンド里見まさとさん。ザ・ぼんちの全盛時代、ヘリコプターで日本全国を駆け巡った伝説は有名だ。

まさとさんは中川さんの長年の友人であり、喜楽亭設立に当たり名誉席亭就任をお願いし、小屋の外観・高座の設定・照明関係等々、細

座席数は70席、プレオープン・柿落とし公演ともにチケットは完売し、会場はお祝いムードの熱気で溢れかえった。

喜楽亭を設立したのは元八光信用金庫常務理事の中川政雄さん（75）。現在はNPO法人お笑い研究会プロデューサーとして、講演・著作活動に多忙な毎日だが、好きが高じていに本格寄席を作り、席亭にまでなってしまった。

平成元年、八光信金・山本支店での中川さんと矢野宗宏さん（関西大学・落語研究会出身）の出会いが、喜楽亭設立に繋がっていった。

喜楽亭の「名誉席亭」はお笑い界のレジェンド里見まさとさん。ザ・ぼんちの全盛時代、ヘリコプターで日本全国を駆け巡った伝説は有名だ。

まさとさんは中川さんの長年の友人であり、喜楽亭設立に当たり名誉席亭就任をお願いし、小屋の外観・高座の設定・照明関係等々、細

信金社内に同好クラブ「お笑い研究会」を作り、社風に相応しくないと様々な迫害を受けながらも、ひたすら会員を獲得して活動した。

その結果、「全国信用金庫・第1回社会貢献賞」を受賞、さらにNHKの「クローズアップ現代」で報道され、地域・八光信金社内ともに「お笑い研究会」が大きく認知された。

プレオープン公演はお笑い研究会・創設メンバーが落語・コミックマジック・小噺を披露し、中入り後は桂三象さん・桂三歩さんがプロの味でご機嫌を伺った。

喜楽亭の「名誉席亭」はお笑い界のレジェンド里見まさとさん。ザ・ぼんちの全盛時代、ヘリコプターで日本全国を駆け巡った伝説は有名だ。

まさとさんは中川さんの長年の友人であり、喜楽亭設立に当たり名誉席亭就任をお願いし、小屋の外観・高座の設定・照明関係等々、細

信金社内に同好クラブ「お笑い研究会」を作り、社風に相応しくないと様々な迫害を受けながらも、ひたすら会員を獲得して活動した。

その結果、「全国信用金庫・第1回社会貢献賞」を受賞、さらにNHKの「クローズアップ現代」で報道され、地域・八光信金社内ともに「お笑い研究会」が大きく認知された。

プレオープン公演はお笑い研究会・創設メンバーが落語・コミックマジック・小噺を披露し、中入り後は桂三象さん・桂三歩さんがプロの味でご機嫌を伺った。

喜楽亭の「名誉席亭」はお笑い界のレジェンド里見まさとさん。ザ・ぼんちの全盛時代、ヘリコプターで日本全国を駆け巡った伝説は有名だ。

まさとさんは中川さんの長年の友人であり、喜楽亭設立に当たり名誉席亭就任をお願いし、小屋の外観・高座の設定・照明関係等々、細

レのいい漫才が続き、中入り後は桂文三さんが落語「ちりとてちん」を熱演し会場を沸かせた。

トリは里見まさときんがまさと噺「戦艦大和の噺」を披露、満員の観客から万雷の拍手が送られ、柿落とし公演はお開きとなった。

柿落としは座布団の補助席、立見席も用意されて大入り超満員。中川さんの旧知の人びとや「お笑い研究会」の面々、田中誠太八尾

レのいい漫才が続き、中入り後は桂文三さんが落語「ちりとてちん」を熱演し会場を沸かせた。

トリは里見まさときんがまさと噺「戦艦大和の噺」を披露、満員の観客から万雷の拍手が送られ、柿落とし公演はお開きとなった。

柿落としは座布団の補助席、立見席も用意されて大入り超満員。中川さんの旧知の人びとや「お笑い研究会」の面々、田中誠太八尾市長他の皆さんがお祝いに駆けつけた。

喜楽亭の次回企画は10月16日「歌声サロン（懐メロをみんなで合唱）・参加費500円」。11月公演は「吉本ピン芸人大集合」を開催の予定。その後も落語・漫才のみならず、薬師寺長老の講話会や爽やかなジャズライブ等の企画が予定されており、小粒でも味のある寄席小屋になることだろう。

「喜楽亭」は八尾の新名所として、天満・繁昌亭に次ぐ大阪の本格寄席として、発展することが期待されている。

「喜楽亭」は八尾市陽光園2－5－4、JR八尾駅北口より徒歩3分。

問い合わせは席亭・中川政雄さん（☎090－1677－7552）へ。

（小川秀人）

「ちりとてちん」を熱演する桂文三さん

キレのいい漫才を披露するシンクタンク

竹田恒泰 特別講演会
古事記と三種の神器を語る
八尾十三街道ものがたり

9月3日、八尾市文化会館プリズム大ホール（八尾市光町2）で「古事記と三種の神器を語る～八尾十三街道ものがたり」と題して竹田恒泰さん（41）が講演した。軽妙な語り口で分かりやすく建国の歴史を語った。約1、000人の聴衆は熱心に耳を傾けた。

舞台に立つ青山敏子さん（左）と竹田恒泰さん

開演に先立って主催者の青山敏子さん（51）は「亡き母の愛情に感謝し国に地域に地球のために成長していく」と挨拶。次いで田中誠太八尾市長は「八尾には由義寺遺跡などの豊かな歴史があり、街おこしにあわせて講演を楽しみましょう」と述べ、玉祖神社清水定男宮司は「玉祖神社は古事記に3回登場し、在原業平がよく参拝され十三峠の茶屋の娘と恋に落ちた」と挨拶。

閉会に当たり恩智神社新海英宣宮司は「創建は470年ころで国内でも有数の古社である」と紹介し謝辞を述べた。

主催は八尾十三街道街おこしプロジェクト実行委員会。

【講演の概要】

三種の神器の鏡・剣・勾玉は実在しており神代の時代から現在まで天皇家に脈々と受け継げられている。三種の神器は古事記に書かれている。鏡は天照大神が天岩戸で「この鏡を私として拝め」と与えたもの。勾玉は天岩戸で舞い踊る時に玉祖命が祭具としてつくったもの。

剣は須佐之男が退治した八俣のおろちの腹の中から取り出した「草なぎの剣」。皇位継承（譲位）の際には「剣璽等承継の儀」が行われ三種の神器が現れる。

鏡は伊勢神宮内宮にほんものが現存している。剣は熱田神宮に、勾玉は吹上御所の剣璽の間（天皇の寝室の隣室）に存在する。

三種の神器は神の霊が宿ることに価値があり貴重な存在である。三種の神器がなくなれば天皇がなることになる。側近も天皇自身さえも三種の神器を目にしたことがない。言い伝えによれば収められた箱を開くと死ぬと言われているので、誰も見たことがない。三島由紀夫は「日本人が最後に守らなければならないのは三種の神器である」と述べた。

壇の浦の戦いで4歳の安徳天皇が入水、三種の神器もろとも海中に沈んだが3日後、箱に入った勾玉が浜辺に打ち上げられた。「剣璽御同座」と言うのは陛下が外出されるときに持ち出されること。璽は印のことで勾玉である。剣璽は常に天皇と共にあらねばならないという考えで、天皇を守護しているもの。持ち出し（帯同）はGHQにより廃止となり、現在では御同座されることはない。特殊な時もある。最近では伊勢神宮の20年毎に行われる式年遷宮の時にあった。

我が国は大昔からあり、神武天皇の太古の昔から三種の神器を継承してきた。世界195カ国以上あるが、最古の国家は日本だけ。

2000年来（紀元歴で2600年来）、美しい日本の国を最も分かりやすく表現しているのが三種の神器である。神話のふるさと、日本の原風景を、若い世代に伝えて欲しい。

（石河亮平）

フセハツ工業株式会社
発条（バネ）を作って72年

フセハツ工業株式会社は、1946年（昭和21年）に作田忠雄さんが創業した「バネ作」がそのルーツだ。

1950年（昭和25年）に株式会社布施発条工業所として法人化、1966年（昭和41年）に現在の社名・フセハツ工業株式会社に社名変更している。4代目社長の吉村篤さんは1973年7月生まれの44歳、3代目の父親から社長を引き継いで4年目を迎える。

バネはスプリングとも称するが、鋼等の材料を螺旋状に巻き、または折り曲げなどして、その弾力を利用するものだ。衝撃の緩和、力の蓄積などの目的で要素部品として用いられている。

バネは身の回りの様々な商品に内蔵されている。パソコン・携帯電話・メガネ・医療器具を始めとして、原子炉・船舶・自動車・航空機部品等々、広範な応用範囲で使用されている。バネ製品には押しバネ・引きばね・ねじりバネ等があり、材質もピアノ線・硬鋼線・ステンレス線・りん青銅線など様々だ。

4代目社長の吉村篤さん

バネ製作は1個の試作から1ロット何百万個の大量生産まで、フレキシブルに多品種少量生産に対応している。72年間の長きにわたって作り続けたバネは数万点以上のアイテム、とても数えきれないほどだ。

年商は4億2千万円、売り上げの40%超が自動車メーカー向けであり、マニュアル車のクラッチ部分にフセハツ工業製のバネが組み込まれている。

量産品のバネはコスト的に合わないので、商品戦略は必然的に付加価値の高い製品に移行して行く。国内メーカーが生産中止した洗濯バサミの輪・ピンチリングの話は面白い。当然ほとんどの顧客は海外メーカーの廉価品を発注するわけだが、日本製にこだわる客先があり注文をもらい、月産4トンほどを納入している。

顧客は大阪一円から関東を含めて600社超と取り引きしている。従業員数は48人、顧客に対しては専属の営業担当者が全面的にサポートする体制をシステム化している。

1998年に創立50年史「ばね物語」を刊行しており、創業者・作田忠雄さんの社訓「良い人間が良い製品を作る」、「理想的な企業は、理想的な家庭を建設する」のポリシーが脈々と流れている。

社員に対する投資も積極的だ。外部研修・セミナー参加・夜間大学への通学・関連資格の受講などの費用を全額会社が負担しており、すべて吉村篤社長の発案だという。

これからもホップ・ステップ・ジャンプと、バネの利いた経営が期待される。

（小川秀人）

フセハツ工業株式会社
代表取締役社長　吉村篤
東大阪市西堤本通西 1-3-43
☎ 06-6789-5531

晴耕雨読

危機一髪の歴史に学ぶ

世界秩序とは何なのか。世界をリードするリーダーはいないのか、自国さえよければいいのだろうか。核兵器保有で人類破滅の恐怖をもたらせた米ソ冷戦終焉後、米国が築いてきた秩序があった。今、その秩序が最悪の危機にある。

自国第一のトランプ大統領、深謀遠慮のプーチン大統領、覇権独裁者の習国家主席の3人は地球人として考えて欲しい。北朝鮮は日本越えでICBM発射（8月29日）、6回目の水爆実験（9月3日）をし、米国に届く核ミサイル存在をアピールした。

米国は国連安保理事会に石油・天然ガス全面禁輸、北朝鮮労働者雇用禁止などの追加制裁案を提示。11日は重大な決断日だ。北はミサイルや電磁パルスで反発するのだろうか。

米露中の足並みがそろわない。日ロ首脳会談（ウラジオストク）でプーチン氏は安倍首相の「最大限の圧力」に対して「石油の禁輸反対」「政治的手段のみで解決可能。関係者すべてが対話に参加すべき」「北朝鮮は草を食べても核を放棄しない」と指摘した。中国の王外相は「制裁は解決の半分のカギ、もう半分のカギは対話だ」と述べた。対話派の文大統領はTHAAD配備も終え、臨戦演習も行っている。米・中・露のリーダーは熱いトタン屋根の上でじりじりしているネコだろう。怖いのは「窮鼠猫を噛む」だ。

対話と圧力を軸に米・中・露・韓・日（5G）鳩首会議で、大局的な理性ある決断（国際世論の動きも出てきた）を期待したい。

歴史が教えてくれる。1962年10月の「キューバ危機」。米国とソ連が核戦争のまさに瀬戸際まで行って立ち止まったという危機一髪の歴史だ。

「核兵器で世界の問題が解決されるという幻想はもうたくさんだ」（カストロ）。

2017・9・15

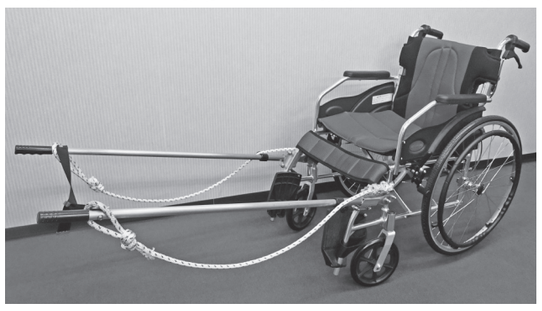
内科・心療内科・皮膚科
さんぽうクリニック
院長　楊　博嗣
八尾市荘内町2－2－36
☎072－990－5331
（八尾徳洲会総合病院西側）

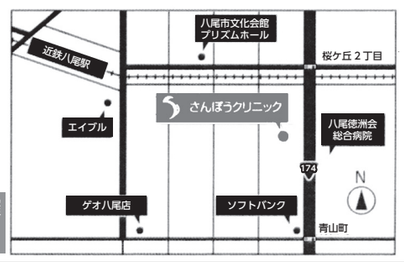
本は著者の分身
記憶は一代、記録は末代
自分史・社史
「著者と編集者が二人三脚で本作り」をモットーに親身になって本作りをします。
お気軽にお電話下さい。
株式会社ドニエプル出版
TEL 072-926-5134

いろえんぴつTV
http://i-tv.jp
2017年4月スタート
東大阪新聞チャンネル
毎週㊍19：00～19：30
自分だけのTV番組がほしい方は下記へ　週1回30分 1カ月1万円（税別）
Tel 06-6252-1602（いろえんぴつ）

ウエス販売
≪商品紹介≫
～色メリヤスウエス～（1kg￥350）
～混合ウエス～（1Kg￥150）
～タオルウエス～（1kg￥400）
～タオル雑巾～（1Kg￥600）
☆不用になった中古衣料やタオルから、ウエスに適した原料だけを選別加工し商品として仕上げました。障がいを持つ利用者が手作業で丁寧に裁断し、梱包をしています。地球に優しく、皆様に愛される商品を目指しています。
社会福祉法人ヤンググリーン
障害福祉さぽーとライフグリーン
〒578－0905　東大阪市川田4－4－8
TEL：072－963－4838
FAX：072－963－4855

プリント基板製造の外形加工
プレス・ルーター加工及び金型製作設計
株式会社 藤原電子工業
http://www.fdk-ltd.jp/
〒581-0042　八尾市南木の本二－一－五一
TEL（〇七二）九九一－三九二七
FAX（〇七二）九九一－三九九六
fujiwara-denshi@nyc.odn.ne.jp

大雨　洪水　津波　台風
こんな時の必需品
災害時対応の「人引車（じんびきしゃ）」

一般社団法人災害避難研究所
マツモラ産業株式会社
共同開発
監　修（一社）災害避難研究所
企画開発　大興産業株式会社
製　造　マツモラ産業株式会社
TEL 072-925-3450
大阪の元気！ものづくり企業

マツモラ健康塾開校のお知らせ
毎月第②・第④土曜日 開催　14時開講（16時終了予定）
参加費無料
プログラムは毎月変わります。ぜひ毎回ご参加ください。
病気を引き起こす前に予防を目的とした健康塾です
糖尿病・痛風と高尿酸血症
花粉症・睡眠時無呼吸
様々な参加型プログラム・測定をお楽しみいただけます
認知症チェック・認知症予防パズル
脳の開発に役立つパズルなど盛りだくさん


主催 マツモラ健康塾　代表　松茂良 興治
〒581-0005　八尾市荘内町 2-2-36
TEL 072-925-3450　携帯 090-1020-2682
さんぽうクリニックにて開催
※八尾徳洲会総合病院西側（青山通り沿い）

連載 小説

河内のカフカ ―⑧―

嶋津 亮太
（八尾市在住の小説家）

青年グレゴール・ザムザはある日、目が覚めると巨大な虫になっていた。時計を見ると仕事に行く時間をとっくに過ぎている。部屋の外から扉を叩く音が聞こえ、家族が自分の名を呼んでいることに気付く。グレゴールは部屋の中から弁解するが、自分の言葉が家族には伝わらない。グレゴールは慣れない体で扉まで這いずり、鍵を開けると、グレゴールの姿を見た家族はパニックに陥る。その奇妙な息子の姿にあからさまに嫌悪を現わす。その日以来、グレゴールは世間から逃れるように自分の部屋にこもってひっそりと暮らすようになる（変わり果てた姿のため、グレゴールの意志とは関係なくそうせざるを得ない）。以前までは、両親の借金を返済するために家族の大黒柱として働いていたグレゴールだったが、醜い姿に変身してからというもの、家族からは露骨に邪魔者として扱われるようになる。

本の内容はそのようなものだった。

翔平はむさぼるように読んだ。未熟な読書経験のせいで読み進むスピードは遅かったが、一つ一つの言葉を頭の中でイメージすることができた。本の中に描かれている物語の世界にのめり込んだのはこれまでの人生で初めての体験だった。

「これは僕の話だ」

翔平はそう思った。違うのは醜く変化したか、美しく変化したかだけのこと。形状の差異の問題で、本質的にはグレゴールと同じことが自分の身に起きている。そう感じた。顕在化の違いさえも実際的に同質の現象であるということは400年前に劇作家のシェイクスピアが、かの有名な戯曲「マクベス」の中で記している。「綺麗は汚い、汚いは綺麗」。冒頭を飾る魔女の台詞である。原文を読めばさらに幅広い解釈を読み取ることができる。

「Fair is foul, and foul is fair」

そこには美醜の問題だけではなく、正当さと不正当さがコインの裏表のごとく、一つの体に内在していることを表している。そのようなことは無論、翔平は知らない。

気が付けば朝を迎えていた。翔平は読みかけの小説に栞を挟んだ。昨夜、帰宅してから休みなく読み続けたことになる。翔平はシャワーを浴びて眠りについた。

目が覚めると、翔平は文庫本を持って外へ出た。昼を過ぎたところだった。

「あんた、どこ行くん？」

その声に振り向くと玄関に母である加奈が立っていた。

「え？　分からないけど、ちょっとお腹空いたから」

何か食べたいということも嘘ではなかったが、場所を変えて本の続きを読みたかった。

「美樹、アリオに行ったで。あんたも行きや。次の祭り、河内音頭でギネスに挑戦すんねんから」

「ギネス？」

「ほら、前から言ってたやん。忘れたんかいな？　八尾のみんなで浴衣着て河内音頭踊るやつ。『3,000人で踊るでぇ』いうて、議員の村本さん声かけしてたやろ？　あれの練習アリオでやってんねん」

加奈の言葉を聞いて、翔平はそのような話があったような気がした。明確な記憶ではないが、聞き覚えがあった。

「村本さんも気をつけなアカンで。あんまり前に出て『祭り祭り』いうてたら。最近の議員さんは目立ったら終わりやからな。ほら、兵庫県のあの人にしても不倫騒動で注目されてから架空の領収書見つかったんや。あれな、不倫で騒がれへんかったらバレてへんかったで。ほら、なんやった？　あの、沖縄のあの子。ほら、おったやろ？　AKBのもっと数が少ないようなんで、おったやろ？　議員になったあの子。あれと不倫してえらい騒がれたやろ？　とりあえず、目立ったらアカンねん。最近の議員さんは」

いつもの立て板に水の加奈の喋り。

「ねぇ、何の話？」

加奈の話は常にものすごい角度と速度で蛇行する。

「え？　何やったかな？　村本さん、えぇ人やからあんま目立ったら捕まるで、いうてたんとちゃうかな」

「いや、村本さんは多分悪いことしてないと思うよ」

「分からんでぇ～。あぁいう人に限って不倫とかしてるからな」

何の根拠もないのに加奈は嬉しそうに話す。

「どないしたんやぁ？」

奥から父の治が股引姿で現れた。

「何もない」

急に冷たい態度に変わる加奈。

「えらい楽しそうに喋っとったなぁ」

「こういうタイプは浮気しようと思ってもできひんねん」

呆れたように加奈は翔平に言った。

「はぁ？　あれ？　美樹は？」

「美樹はあれやん、アリオ行ったやん。河内音頭まつりのギネスのやつで」

「え？　あぁ、そうか。ワシも行こかな。おい、翔平、お前も行けよ。っていうか踊れんのか？　顔も形も変わってもうたけど」

「何言ってんの、踊れるよ。きっと」

「忘れてもうたんやったらワシが教えたるがな」

そう言って治は、河内音頭を歌いながら踊り始めた。

「ちょっと父ちゃん、この狭いとこで踊らんといて」

加奈の声もどこ吹く風。踊り続ける河内の男。翔平は驚いた。自分の見た目が変わってもすぐに順応してしまうこの両親に。グレゴールの家族とは違う水原家のおおらかさに。それ以上に驚いたことは、物心つく前からあれほど踊っていた河内音頭が踊れなくなっていたことだった。

「ちょっと父ちゃん、もうやめてぇ！」

玄関先で叫ぶ加奈。それでも意気揚々と踊り続ける治。

「ハァー、ヨイトコセー、ドッコイショ～」

「ちょっと父ちゃん！　もう！　私が日野皓正やったらどつき回してんで！」

そう言って治の肩をはたいた。

翔平はその場に立ち尽くしていた。

次号（10月15日付）に続く

SDGs（持続可能な開発目標）がにわかに高まって来た。政府と共に経団連、証券業界などが動き出したからだ。このような動きに先んじて、早くから中小企業を対象として環境経営を提唱するのがKES（京都環境マネジメントシステム・スタンダード）である。

今回の取材先は主にシーリングなど「漏れを防ぐ」機能を持つ商品の販売会社・東輝産業株式会社（八尾市跡部北の町1―3―17、☎072―990―3720）である。環境経営マインドの高い代表取締役社長石井政俊社長（63）を訪ねた。

シリーズ O-KESに取り組む企業②

東輝産業株式会社

KES環境経営で「地域に貢献」する

八尾特産〝棉の種の保存〟を目指す異色企業

会社の沿革

同社は染色機械用品の販売を目的に株式会社東輝商会として昭和23年（1948年）に創業。昭和30年（1955年）、オイルシールメーカーのNOK株式会社の指定代理店認定を機に東輝産業株式会社を設立し現在に至る。主要販売商品はオイルシール、パッキンなどのほかにセラミック製品、樹脂加工品等々の産業用部品である。

「夢」を語ろう

石井社長は2010年10月に第4代目社長として就任（入社歴38年）。「楽しく、『夢』を持って、いろんなことに挑戦しよう」が経営ビジョンだ。KES導入の活動は2005年から始まり、2006年に「KES環境機構」ステップ2を取得した。環境改善項目としての電気使用量の削減は、本社ビル建設（2008年）時に設置した太陽光発電パネル120枚が寄与した。電気使用量の20%はソーラー発電だ。受付ロビーの大型液晶テレビに「エネルギー問題～化石燃料の枯渇」の説明が流れ、テラスにはゴーヤなどの植栽。環境に対する啓蒙と実践活動が「見える化」され企業価値向上への勢いを感じさせる。

移動は公共交通機関を優先

KESの推進責任者である総務部経理課の和田憲明課長は「テーマはしんどい案商品を検討する。女性3人の参加で活性化したという。営業マンの移動について社有車は営業活動に支障のないようにと8台、公共交通機関利用を優先し、自動車通勤は認めていない。「化石燃料減少」の観点からの取り組みだ。

地域の発展に力を尽くす石井政俊社長（2階テラスで）

営業部門の生産性向上

石井社長は「ご用聞き営業ではダメ。エンドユーザーの情報をすくいあげてメーカーと共に開発していく、そして機密を大事にする。これが当社の存在意義になる」と明解だ。営業部隊（商品別に1～6課20人）を後方支援する女性アシスタント12人は第7課に所属。既婚者8人、未婚者4人で平均年齢は30歳代前半、現在、育児休業中は2人だが、ローテーションで仕事を覚えているので困ることはないと言い切る。7課は間接業務を集中させ営業の生産性を上げるというものだ。女性活躍について石井社長は「もともと、女性管理職を育てたいと思っていた。来春には数人の女性課長を誕生させる」と語った。

「明日できることは明日せよ」

ここ1年間は残業ゼロ。8時40分～17時20分が就業時間。年間休日数は116日、年間労働時間1980時間をベースに就労管理されている。タイムカードはない（捺印のみ）。営業担当者が帰社してまで仕事をすることはなくほとんど外でこなす。情報端末機器の活用で、どこででも、いつでもできると納得ずくである。一般的に「今日できるものは明日に延ばすな」と言うが、石井社長は違う。「明日できることは明日せよ」と定時退社が基本だ。

郷土愛から「種の保存」

八尾で生まれ育った石井社長は郷土に愛着を持つ。「八尾の名産物の一つである河内木棉を大事に残していきたい。同社の事業の範囲ではないが、最終的に地域に愛される会社になりたい。地域に貢献し地域の発展に努力したい」と「棉の種の保存」を掲げ「生物多様性および生態系の保護」に挑戦する。

テラスではO―KESから提供された10粒のタネから収穫できた30個以上の綿花が展示され「次はタネを取り出し、自社敷地内の緑化活動を継続する予定」（環境委員会）という。結実する日は遠くはないだろう。

中小企業向けのKESは導入企業の展開次第で大きく進化していく。事業枠を越え地域へと広がり、SDGsに近づく活動は注目に値する。（石河亮平）

＊SDGs「Sustainable Development Goals」国連が2015年に採択し、2030年を期限とする17の目標と169のターゲット。その理念は全人類の幸福を実現することにある。具体的には、貧困・飢餓の撲滅、健康福祉の充実、教育の提供、気候変動回避等々である。外務省はピコ太郎さんを起用し動画でPR中。経団連は「行動指針」をSDGs対応に改定する。

エジソンがやって来た

蓄音機とラジオの歴史が一堂に

東大阪市民美術センター（東大阪市吉田6）にて8月8日から9月3日の間、特別展「音楽再生の楽しみ・はじまりは蓄音機」が開催された。

大阪芸術大学博物館（大阪府南河内郡河南町）の協力で、1890年代半ば～1930年代製造までの蓄音機・電蓄・ラジオを中心に合計64点がところ狭しと展示され、蓄音機の歴史がよく分かった。

蓄音機は1877年（明治10年）に米国のトーマス・アルバ・エジソンが、蝋管に音楽を記録・再生して楽しむ円筒形レコード・蓄音機（フォノグラフ）を発明したのが始まりだ。エジソンの偉大な発明から140年、日本初の蓄音機「ニッポノホン」や家具調に様々に工夫された蓄音機などを見て回るだけでも楽しめた。

1926年（大正15年）、米国のブランズウィック社がGE社の協力で、世界初の電気式蓄音機「電蓄」を開発した。音量調節のできない蓄音機に比べて、電蓄は音質を損なうことなく自由に音量調節が可能であり、発明以来半世紀にわたり市場を支配した蓄音機はその使命を終えた。

第2会場では米国RCAビクター社の工場で、レコードの録音から大量生産されて出荷されるまでの様子を映像で紹介。20分弱の映像によくまとめられていた。

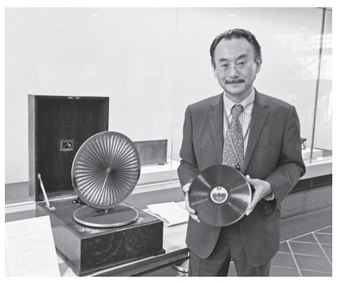
ラジオはラテン語で「放射」の意を表す。1900年（明治33年）設立の安中電機製作所（現在のアンリツ株式会社）が1924年（大正13年）にラジオ受信機・スピーカーの製造販売を開始。会場の一角に初期の「鉱石ラジオ」が展示されていた。

会場入口にはルイ・ルミエール製作の「ダイアグラム」方式の蓄音機が展示され、人目を引いていた。

1908年（明治41年）に拡声ホーンを使用しないダイアグラム方式の特許を取得しており、1924～1926年（大正13～15年）に生産された。

市民美術センターの学芸部長の柳知明さんに詳しく解説してもらった。

「外界を遮断するイヤホーン使用ではなく、スピーカーから流れ出る音楽を体感して欲しいですね。SP盤を蓄音機で聴くもよし、LP盤やCDをステレオで聴くもよしです」



柳知明さんとダイアグラム式蓄音機

家具調・蓄音機内蔵の室内スタンド

日本会議大阪中河内支部 講演会

ウクライナは今 ～ロシアとEUの狭間で

9月3日、午後2時から日本会議大阪中河内支部（中東弘支部長）第11回講演会が柏原市民文化会館リビエールホール（柏原市安堂町1）で開かれ約50人が参加した。

講師の小野元裕（47、本紙社長）氏は天理大学でロシア語・ロシア文学を専攻し、卒業後、新風書房（大阪市）に入社するも2005年、ウクライナに赴きロシア文化の源流を探求。帰国後の2006年、ドニエプル出版を設立し、豊富な人脈から日本ウクライナ文化交流協会を立ち上げ、毎年現地を訪れて様々なイベントを開催している。民間で最もウクライナ事情に詳しい人物と評されている。講演の要旨は次の通り。

現在のウクライナの状況

ウクライナの現状を内戦と言うが認識がずれている。これは戦争である。東ウクライナでは1万人以上の死者が出ており、150万人以上が避難している。第三次世界大戦が始まったとも言える。人口約4500万人、東はロシア、北はベラルーシ、西はポーランド、南はモルドバ、ルーマニアと接し黒海が広がる。2014年、プーチンは核爆弾を持ってセバストポリ軍港のあるクリミアを不法占拠したが、国際法違反である。現在の戦争の始まり。ウクライナ人は大きくなったドラ息子が小さな母を踏み倒していると考えている。ウクライナはロシア発祥の地。ウクライナ人の性格は穏やかであるが、悪く言えば結束力がないのでロシアにつけ込まれて奪い取られた。ウクライナ人は絶対にロシアの下で生活したくないと言う。落としどころは歴史の再検証をすることだ。

ロシアの裏切りの歴史

歴史を紐解くと裏切りはロシアの常套手段である。ポーランドとの戦いでウクライナはロシアと手を結んだ。賢いウクライナ人は「絶対に1994年に核兵器を離すべきでなかった」と言う。また、オバマ大統領が「世界の警察を辞める」と宣言した罪は大きい。今、「時限爆弾」を稼働中の原発にブチ込み西ヨーロッパを住めなくする」と言う急進的な若者が増えている。ウクライナ人は安倍首相とプーチンを見て「日本人は甘い、北方領土は絶対に返ってこない」と断言する。返還については日本人は話し合いだと言うが、戦争か買い取るかである。

ウクライナとロシアの社会構造の違い

1240年、キエフ（キエフ）が包囲し植民地とした。「キエフが母、ロシアは子ども」と親子関係と考えるウクライナ。一方、ロシアは野蛮なモンゴル人から「ウクライナ（弟）を守るロシア（兄）」という兄弟関係と捉えをタタール人（モンゴル）権力者となる。人口1億4千万人の半分以上は公務員と年金受給者、給料や年金がアップさえすればよいと、強力な権力者を求める。たとえプーチンが殺されても次が出てくる構造である。ウクライナは中心に権力者がいる円形の構造、トップがいなくなっても代わりは周りにいる。

現在の状況を調整できるのは

1991年、ソ連は崩壊した。ソ連の支配にあったバルト三国のロシア離れが進んでいる。エストニアでは言語庁ができてエストニア語Aランクを話さなければ医者になれない。またロシアに対しての軍備強化を進めている。クリミアには資源がなく、観光客はほぼゼロになっている。

プーチンとトランプ大統領の仲はシリア問題でヒビが入り、大統領選の情報操作や英国のEU離脱もプーチンの差し金ともいわれ険悪だ。

ウクライナでは今年は日本年、外交関係樹立25周年で2、300億円の支援を行うなど友好的である。この戦争はロシアがクリミアから出て行けば終わる。ウクライナ人は侵略しない。ロシアは折れることもない。国連も力を持たない。このような中、日本は微妙な立場にある。最後に英字新聞を引用して締めくくった。

「世界広しといえど、エンペラー（天皇陛下）は日本にしかいない。この世界を調整できるのはエンペラーだけ。すなわち日本だ」（石河亮平）

ウクライナの現状について講演する小野元裕社長

「モノ」が語る 戦争展に参加して

参加記

竹やりや千人針など、戦争に関する100点以上もの展示品が集められた「〝モノ〟が語る戦争展」が8月13～15日に近鉄百貨店上本町店10階、近鉄文化サロンにて開催された。

大手前大生
（兵庫県西宮市）

川下瑞希さん

「モノ」が語る戦争展では、金属探知機で見つからないよう瀬戸物でつくられた手榴弾や地雷、焼夷弾の模型や軍服など、戦争を経験された方から提供された「モノ」が展示された。

また、矢野博画伯が描いた「大阪大空襲絵画」の原画展や竹村健一氏の描いた「はらぺこのうた」の原画展も催され、戦争の恐ろしさを絵から語りかけた。来場者の半数以上が戦争を知っている世代で、あまり若い世代が来場しなかったことから、戦争を知っている世代が「我々が戦争を知っている最後の世代です。もっと若い世代に本当の戦争とはこういうものだと伝えていかなくてはならないと年々強く思います。こういう機会がせっかくあるのだから、若い世代にも来場してもらい、戦争について知ってもらいたいです」と胸の内を明かした。

初日には今年で第30集にもなる、全国から公募した戦争体験をまとめた「孫たちへの証言」掲載者による朗読会が行われた。第30集に向けて寄せられた応募原稿は昨年の5割増し。大阪府内や兵庫県など、近畿圏内を中心に多くの地域からこの朗読会のために掲載者が集まった。

田中沙紀さん

文章に隠された思い出や詳細などを朗読とともに語る掲載者たち。当時を思い出し、堪えきれず涙ながらに朗読する掲載者もいた。

親子で訪れた掲載者が多いなか、孫とともに参加した掲載者も。孫とともに朗読する掲載者に「孫たちへの証言」を発行する新風書房代表の福山琢磨さん（83）は「ずっと〝このような原稿を待っていた〟と喜びの一言。まさに〝孫たちへの証言〟となった。

脱北者の〝生の声〟を聞く －2－

猪飼野探訪会研究員　中野善典

東大阪新聞社社長、小野元裕氏の協力により、「北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会」（以下「守る会」）代表の山田文明氏（68）と、北朝鮮を脱出し現在日本に居住している、いわゆる「脱北者」2人から生の声を聞く機会を得た。

「北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会」代表の山田文明氏

――斉藤さんの娘さん家族がまだ北朝鮮にいます。お母さんが日本に帰ってきたこと、さらに日本のマスメディアにでられることで娘さん一家に危険は及ばないのでしょうか。

斉藤　自分が公の場に出るほうが娘に手をかけにくくなるのではないかと考えています。

拉致被害者家族の横田滋・早紀江さんも娘の名前を公表するかどうかでかなり悩まれた後実名報道をすることが娘の安全につながると考えたことはよく知られている。

――北にいる時日本に帰りたいとは思いませんでしたか？

榊原　うーん、思っていたけどどうしようもなかったですね。「仕方がない」と思っていました。それよりも日々の生活で精一杯だったですね。

――ということは、明日どうやって生活していくかという事で頭がいっぱいだったわけですね。

榊原　いいえ、明日ではなく今日一日をどうやって凌ごうかという目の前の事で精一杯でしたね。

「仕方がない」、「明日ではなく今日」。私は言葉を失った。北での40年間の生活の中で言いたいことも言えない理不尽な環境の中どのような心持ちで暮らしていたのかという疑問があったのだが、そのようなことすら考える余裕がなく「今日を生きる」ことで精一杯だったということなのか。私は脱北者が著した本は多数読んでおりある程度北朝鮮での生活は理解していたつもりだったが、文字を通して理解することと実際に当事者から話を聞いてみるのとではかなり衝撃度が違うことに気付いた。

斉藤さんや榊原さんのように日本から北朝鮮に渡り、その後脱北して日本に帰ってきた日本人妻の中に平島筆子さんという方がいる。彼女は2年余り日本で生活をした後北朝鮮に戻った。北に残してきた家族からの電話、日本に住んでいた当時とは様変わりした東京での孤独な生活、経済的な理由などから残り少ない人生を家族と共に生きることを選択する。その時平島さんは67歳だった。

――平島筆子さんの事をどう思いますか。

斉藤　北朝鮮に戻らず日本から仕送りをしてあげたほうがよかったんじゃないかと個人的に思います。日本からの仕送りがあれば北での生活はかなり助かりますからね。

榊原　私も同感ですね。

韓国に渡った脱北者の場合、韓国政府はハナ院という施設を設け韓国社会に適応するための教育を受け数か月を過ごす。その後自分の力で韓国社会に溶け込んでいく。しかし日本にはそのような施設はなく日本に戻ってきた脱北者たちは山田氏のような方々の援助を頼りに日本語の習得を含め様々なことを克服していかなければならい。

山田氏が脱北者を支援するきっかけは何だったのか。そしてこの活動を続ける原動力はどこから来るのか。中国で拘束され、しかも北朝鮮から逮捕状まで出ているにもかかわらずなぜ今も続けられるのか。山田氏に話を聞いた。

山田　きっかけは最初大韓航空機爆破事件の犯人金賢姫の手記を読んで衝撃を受け北朝鮮という国に関心を持ちました。その後、北に渡った家族の親戚の人たちから直に聞き取りを行いました。そして北朝鮮の実態を知り脱北者の支援をするようになりました。

――中国で拘束されたときは日本に戻れると思っていましたか。

山田　ええ、戻れると思っていました。私は楽天的なのでしょうね。

当時の文献を読むと《8月12日の尋問の冒頭、「今回のあなたのたちの行動は人道的な立場からのものであったと判断している」と告げられ、7人の脱北者の処遇にもかすかな光を見出した》とある。これを聞いて山田氏は日本に無事帰国できるのではと少し感じたのかもしれない。しかし、そのことよりもこの資料でも分かる通り、取り調べ中でも山田氏は一貫して自分のことよりも拘束された脱北者の今後の処遇を心配している。

――ご家族の方は山田先生の活動に関してどう思われているのですか。様々な団体から嫌がらせなどもあると思うのですが。

山田　上海から成田に戻ってきて記者会見終了後、東京から大阪に向かう新幹線の中で私の妻が「もうここまでやったのだからとことんやったら」と言われましてね。

――北朝鮮に対峙していますが怖くないのですか。

山田　怖い？　うーん、どうしてかな。私は数多くの帰国者の家族に直接聞いてまわることで北朝鮮の実態がどのようなものであるかを理解しました。あなたは文献のみを通して北朝鮮の実態を知りましたね。だから怖いと感じるのではないでしょうか。

――山田先生はキリスト教徒か博愛主義者なのですか。なぜ命を懸けてまで救出活動を続けるのでしょうか。

山田　キリスト教徒でも何でもありませんよ。べつに北朝鮮にいる人を無理やり脱北させ日本に連れてきているわけではないのですよ。日本に帰りたいと願う人を支援しているだけですから。それとなぜ活動するか？　うーん、誰もやらないからかな。

脱北者の方々が体験した北朝鮮での壮絶な生活、中朝国境にある鴨緑江を決死の覚悟で渡り、その後の日本社会での様々な壁を乗り越えて生きている人生、また外国で拘束されても前進し続ける山田氏の生き様に今回少しだけ触れることができた。そして、いったい「幸せ」とは何なのかということを改めて考えさせられた。斉藤さん、榊原さん、そして山田氏との面会を通して自分の人生をもう一度見つめなおす契機になった。

読者のみなさん、あなたにとって「生きること」「幸せ」とはなんですか。

（おわり）

夫と北へ渡った斉藤博子さん

両親と北へ渡った榊原洋子さん

笑う税理士　17

税理士　上西　知

セルフメディケーション税制②

今年から始まったセルフメディケーション税制を前回紹介致しましたが、その続きでございます。

薬局で売られているOTC医薬品の購入を促す制度だということは前回お伝えしました。今までにも医療費控除という制度がありましたので、確定申告の時期には皆さん病院の領収書をたくさん私共の事務所へ持ってこられます。

今までにあった医療費控除とは選択制になっておりますので、ご注意ください。今までの医療費控除は10万円を超えたら控除してもらえるとご存じの方が多いですが、詳しくはちょっと違います。所得が200万円以下の方は、所得の5％になるので、10万円ではなくて、下がる場合があるということです。

今回のセルフメディケーション税制は年間1万2千円を超えれば所得控除してくれる制度ですので、対象OTC医薬品を薬局で買って年間の合計額が1万2千円を超えていれば確定申告をして税金が安くなるということです。ただ従前の医療費控除との選択になるところが厄介なのです。

そして今年から確定申告の時に医療費の領収書を添付しなくて良い制度ができましたが、医療費の明細書を代わりに添付するとなっているのです。

税理士泣かせだなぁ。なぜかと申しますと、今までも電子申告の際に明細をつければ領収書は提出を省略して五年間保管していればよいとなっていたのですが、この明細を作るのは税理士の仕事になってしまうと結構大変なんです。まずは支払医療機関ごとに分ける、治療させた人毎に分ける、その上、セルフメディケーション税制と従来の医療費控除どちらが有利かを判定します。

そこから明細を作って確定申告書を提出します。還付金額が2千円だと、請求はそれ以上しにくく、税理士さんは結構つらいです。お客様に協力いただけると嬉しいです。

八尾市で初の
八尾を守る女性の会

八尾市役所
八尾警察署
八尾消防本部
自衛隊

八尾を守る女性の会が8月23日に八尾駐屯地会議室（八尾市空港1）で開かれた。八尾市役所から4人、八尾警察署から4人、八尾消防本部から4人、自衛隊から8人が参加し、職場における女性の立場、待遇など胸襟を開いて話し合った。参加者は全員女性。八尾市では初めての試みで、全国的にも珍しい。

女性だけなので、率直に思いを述べ合うことができた

平野佐織八尾副市長（52）が冒頭のあいさつで「女性でなくてはできないことがあります」と言い、女性と男性が互いの得意分野で力を発揮し、協力して仕事を遂行することの大切さを述べた。

その後、1人1人が日頃思っていることをざっくばらんに話した。八尾市役所職員が口火を切る。女性のお茶汲み仕事をなくしたとき、男性から「女性に気遣うことなく、好きなときに自分でお茶を汲んで飲めるようになって、気楽になった」と喜びの声が多く出た。悪習を踏襲していたのでは、互いに本音が分からなかった。

八尾警察署で刑事課強行犯係に勤める女性は、腐乱死体を率先して運ぶという。マッチョな男性でも腰が引ける仕事だ。また、窓口は強面の男性よりも柔和な女性の方がいいのではという意見には、会場の全員がうなずいた。

八尾消防本部に勤める女性は、消防学校の成績が良かったにもかかわらず、希望の「火消し」にはなれず事務職に回された経験を話した。男性と同じように「火消し」「24時間勤務」を希望する女性に対して、少しずつ職場が改善されているという。不評だったピンク色の女性用制服もなくなったという。

自衛隊で航空操縦士として勤める女性は、高校卒業後、気象観測の仕事で入隊した。働くうちに航空操縦士に憧れ、勉強して夢を手にした。また、4人の子どもを育てながら働く女性もおり、逞しさは男性顔負け。

少子高齢化が進むなか、社会における女性の活躍はますます期待される。

ヘリコプターの前で記念撮影（前列左から５人目、平野佐織八尾副市長）

土器の世界
土器の魅力を追い続ける
同塵窯（どうじんがま）

木村直規さん

同塵窯はギャラリーを備えた窯で、木村直規（なおき）さん（69）が主宰している。木村さんは京都北白川の出身、世界史・政治経済の高校教師をしていた。

その昔、大学教授の父親から貰った小遣いで「焼き物」を購入したことが、自己流ながら陶芸への道を進むキッカケとなった。

40年ほど前に趣味として陶芸を始めた。展示会に作品を出品したところ、プロの陶芸作家に「自己の価値観を持って、売るという責任意識を持ちなさい」とアドバイスを受けた。要は、作品を無料（ただ）で上げてはいけない、必ず「価格」を表示して販売することが肝要だと教わった。

当時の値付けは、珈琲カップ等が、単価3～5千円で売れた時代だった。しかし世の中は、そういつまでも上手く運ばない。やがてバブル景気が崩壊し、プロの作家もサッパリ売れない時代が到来した。現在は価格はともかく、普段使いで生活の中で使ってもらうことを生きがいに製作にいそしんでいる。

器作りをする木村直規さん

木村さんは弥生式土器に惹かれて、この30年ほどは可能な限り土器と同じ土、同じ製作方法、焼き方（野焼き）で土器を製作している。土器は5千年以上前の旧石器時代（農耕文明以前）から焼かれており、縄文土器が世界最古と言われている。日用雑器として、特別に祭器として作られるようになった。この時代は支配者と被支配者の関係が発生していない原始共産制社会であり、人びとはひたすら神を畏れ敬う時代だった。

やがて農耕文明の発生により私有財産制に基ずく階級社会を形成していくことになる。祭政一致の時代とはいえ、より高度な生産性の向上へと進み、土器文化に大きな変化をもたらした。人びとの神への意識は次第に薄れて階級社会の中に埋没していく。この時期が世界の四大文明の時代であり、弥生時代にあたる。

木村さんは以前に、縄文時代中期（5千年前）の土を入手する機会があり、心を込めて「土器」を焼き上げた。作品は大阪経済大学・80周年記念館に贈呈し大事に陳列されている。

（小川秀人）

同塵窯
主宰　木村直規
東大阪市本庄 1-2-18
☎ 072-962-2178

大手前大学（兵庫県西宮市）
トレーニング・サマー・キャンプ
目を輝かせる学生たち

見る　知る　触れる　体験する

広域

「象牙の塔」の時代は終わり、「社会と連携する教育機関」へと変貌する大学。めまぐるしく変化する社会のなかで、大学の存在もまた大きく変わりつつある。

環境破壊、世界的テロ、AIの急発展などにより、これまで誰も体験したことのない時代が目前に迫っている。大学に求められているのは、若者たちに学問・知識を授け、大きな波を乗り越える力を付けることだ。そのためには、学問・知識をベースに、教員は学生と共に社会問題に向き合い、知識と経験を織り交ぜながら知恵を身に付けさせる指導こそが必要だ。

「STUDY FOR LIFE」を建学の精神とする大手前大学（鳥越皓之学長）は、体験学習に力を入れようと動き出した。8月21日～22日に「トレーニング・サマー・キャンプ～見る・知る・触れる・体験する～」を京丹後市で行った。今年4月に大手前大学と京丹後市（三崎政直市長）が包括連携協定を締結したことで、キャンプが実現した。

旗振り役は社会連携委員長の山下真知子教授。5年前から京丹後と関わってきた谷村要准教授、歴史的建造物を探索する玉田浩之准教授、地域に役立つプログラミングを模索する本田直也准教授、ドローン撮影で地域起こし作品を考える森本雅博教授がそれぞれのゼミ生を連れて参加。イベントプロデューサーとして活躍する衣川大輔非常勤講師は現地を知るために、また福井就講師は短期大学の代表として加わった。地域・社会連携室の小森肇室長、広報部の山本篤史氏が全面的にサポート。非常勤講師を務める私も参加し、取材のコツを学生に伝授した。

21日朝、大手前大学からバスに乗り2時間半ほどで京丹後に到着。参加者約30人全員で丹後ちりめん織元、田勇機業株式会社（田茂井勇人社長）を見学。丹後ちりめんの歴史、技術、今後の展開など目から鱗が落ちる話を聞く。学生たちはメモを取りながら熱心に取材していた。

夜は京丹後市が用意したシェアハウスで学生たち自ら作ったおにぎりとサラダで語り合う。丹波米で作ったおにぎりは美味しく、その味わいがいつまでも口の中に残るほどだった。

2日目、22日は「蒲井・旭地区」「稲葉本家周辺」「かぶと山周辺」「琴引浜周辺」の4チームに別れて取材。苦労しながらも、若者ならでのガッツを発揮し、学生たちは聞き取りを行っていた。

3時間後、夢まち創り大学（廃校をリフォーム）に集合し、チームごとで発表を行った。

○○さんは取材に協力的だったとか、××さんは非協力的だったとか、地元住民でも知らない実情が浮かび上がってきた。

都会にいるときには決して見せない学生たちの目の輝きを見たと半ほどで京き、このキャンプは成功したと確信した。これからの展開が楽しみだ。

（小野元裕）

「夢まち創り大学」で記念撮影

田茂井勇人社長の話を真剣に聞く学生たち

なつかしい写真
大阪鉄道

〈写真提供〉読者・坂口　功

撮影時期　昭和33年8月ごろ
撮影場所　国鉄天王寺駅に停車中の快速ディーゼル列車（湊町―奈良）間

国鉄関西本線の全身である大阪鉄道が明治22年5月14日に湊町―柏原間が河内地方では最も早く鉄道として開通しました。

平野・八尾付近に大きな紡績工場が誕生しましたが、外国からの安い撚糸が入り、業界の衰退により、現在では大きなマンションに変化しました。

湊町―奈良間の電化工事も大阪万博以降になりました。

八尾柏原版
八尾柏原支社
八尾市山本町南6－2－29
TEL 072－926－5134
FAX 072－921－6893

柏原市議16人決まる

任期満了に伴う柏原市議選は9月10日に投開票が行われ、新議員が決まった。21人が立候補し、16人が当選（今回から定数が1減）。

峯　弘之　40　大維新❶
奥山　渉　42　自現❹
橋本満夫　52　共現❺
山下亜緯子　37　無現❹
乾　一　66　自現❺
中村保治　60　公現❺
梅原寿恵　60　大維新❶
新屋広子　54　公現❷
鶴田将良　55　無現❼
田中秀昭　59　無現❸
大坪教孝　59　無現❹
大木留美　52　公新❶
山口由華　46　無現❷
寺田悦久　64　無現❺
岸野友美子　65　無現❹
山本修広　41　無元❷

10万人が酔う

9日は最多人数で一斉に踊る盆踊りのギネス世界記録®に挑戦した。夕方5時から入場が始まり、6時30分から開始。2、891人が参加。三好家肇八尾本場河内音頭連盟会長の音頭で5分間踊った。認定基準に即して、全員浴衣と草履（または下駄）を着用。5%が間違うと失格になるので、参加者は緊張した面持ちだったが、いざ始まるとにこやかな表情になった。踊り終わったとき、安堵の声があちらこちらから聞こえた。

厳選な審査の結果、2、872人がカウントされ、今年7月に宮崎県延岡市で行われた2、748人を抜き、ギネス世界記録®を達成した。公式認定員マクミラン舞さんから認定書を受け取った松村康隆実行委員長（52）は満面の笑顔で参加者に礼を述べた。

10日は数々の出店が並ぶ中、マルシェブースではジュニエコのメンバーによる実践販売が注目を集めた。ジュニエコとはジュニアエコノミーカレッジの略で、小学校4、5、6年の子どもたちがおよそ5人のチームを組み、模擬株式会社を設立するという試みだ。商売体験を通して、「自ら決めて行動できる人材の育成」を促進するプログラム。八尾商工会議所青年部（村中克会長）の開催により今年で4回目になる。

「うどんギョウザ」「ハッシュドポテト」「枝豆」「パンケーキ」「チョコやき」「ダーツゲーム」。6チームそれぞれが接客から販売、売上計算までをこなした。「お客さんが多くて準備が間に合わない時もあったけど、みんなで力を合わせてやり遂げたことが楽しかったです」。メンバーの1人はそう言って清々しく笑った。商売の街、八尾。地域の未来を担う彼らに期待は膨らむ。

ジュニエコでは子どもたちが活躍

左から三好家肇師匠、池尻誠会長、田中誠太八尾市長、松村康隆実行委員長、マクミラン舞公式認定員

第40回八尾河内音頭まつり

2,872人 ギネス世界記録達成

10月4日は里親の日

全国一斉啓発 One Love キャンペーン

現在、虐待などの様々な事情により養護されている子どもは全国に45,000人いる。厚生労働省が8月2日に発表した「新しい社会的養育ビジョン」では「永続的解決の必要性」を訴えている。子どもたちを取り巻く社会問題には「貧困」「虐待」「自立支援」等様々あるが、それを対処法ではなく根本的かつ永続的に解決するには「家庭養育」が大きなカギとなる。

子どもにとって必要な暴力のない、自己否定のない安心で安全な家庭養育。政府はこの家庭養育の目標値を75%とした。しかし、現状は里親家庭の不足、里親制度への理解不足が深刻であり17%程度。

「10月4日は里親の日。全国一斉啓発OneLoveキャンペーンでリーフレットを配布することにより、子どもたちの人生が変わります」とNPO日本子ども支援協会代表理事の岩朝しのぶさん（44）は広く呼びかけている。

問い合わせはNPO法人日本子ども支援協会（☎0742―27―6266）へ。

LINOAS（リノアス）オープン

八尾市の新しいシンボル目指す

今年2月に36年間の歴史に幕を下ろした西武百貨店八尾店。その跡地にLINOAS（リノアス）が9月15日にグランドオープンする。手がけるのは、株式会社ザイマックス（東京都港区、吉本健二社長）。

LINOAS（リノアス）は「ちょっといいじぶんベーシック」をコンセプトに、自分らしい価値観とこだわりのある暮らしを叶える、魅力的な街の新しいシンボルを目指す。

無印良品・しまむら・ニトリ・Seriaや、大型ブック&カフェ・H&M（11月以降）など、数多く出店する。

グランドオープン当日は午前9時より、1階西側出入口にてオープニングセレモニーを開催する。

河内の歴史文化再考 開催

第1回は俊徳丸、高安の女がテーマ

連続講座「河内の歴史文化再考」の第1回が9月2日、大阪経済法科大学近鉄八尾駅前キャンパス（八尾市）で開講された。主催は高安能未来継承事業推進協議会。

今年2月、約300年ぶりに高安ゆかりの能楽「高安」の復曲・上演を果たした。さらに、八尾が能と深い関わりのある地域であることを啓蒙するため、全4回で連続講座が企画された。

第1回の講師は能楽研究者で能楽と郷土を知る会代表、朝原広基さんを迎え、「俊徳丸、高安の女～逆説的な河内の能の物語の背景」というテーマで約1時間半の講演。俊徳丸と高安の女がそれぞれ登場する「弱法師」「高安」を読み解きながら、世阿弥の手による本と現代で上演されている本の違いやストーリー上の疑問点などについて、様々な資料を見比べながら解説。特に「高安」に関しては復曲したばかりで、朝原さんの話にも熱が入った。

申し込みは、事務局（☎072―999―7491）へ。

第1回
9月2日（土）10時30分
「正午俊徳丸、高安の女
～逆説的な河内の能の物語の背景」
朝原広基氏（能楽と郷土を知る会代表）

第2回
9月30日（土）10時30分
「正午河内の歴史文化再考
～河内の歴史文化を再認識するパネルディスカッション」
新海英宣氏（恩智神社宮司）
石上敏氏（大阪商業大学教授）
浅見緑氏（大阪経済法科大学教授）
橋本久氏（前八尾市立歴史民俗資料館館長）

第3回
10月28日（土）10時30分
「正午高安の地と歴史
～古文書に残る芸能集団の足跡」
小谷利明氏（八尾市立歴史民俗資料館館長）

第4回
11月25日（土）10時30分～
「正午復曲能『高安』
～間（あい）狂言詞章制作あれこれ」
山下あさの氏（観世流能楽師シテ方）

高安の女の謎ときをする朝原広基さん

大会宣言をする角田禮子会長

第55回消費者大会

八尾市制70周年プレイベントとして盛大に開催

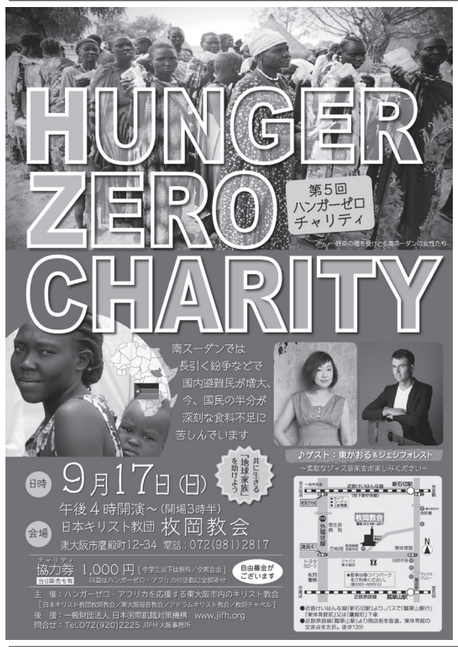
第55回消費者大会が8月3日に八尾市文化会館プリズムホール（八尾市光町2）で行われた。390席の小ホールは参加者で埋め尽くされ、立ち見が出るほどだった。主催は八尾市消費者問題研究会、八尾市食生活改善推進協議会、NPO法人関西消費者連合会大阪支部、共催は八尾市、後援は大阪府、八尾商工会議所。

八尾市制70周年プレイベントとして盛大に行われた本大会のテーマは「健康で安全・安心なくらしをもとめて」。

「未来をになうこどもたちのために、わたしたち大人は今、何をどうすればいいのでしょうか。消費者・企業・行政が共に手をたずさえ、健康で安全・安心な地域社会の輪を広げることを、ここに宣言します」と角田禮子会長が大会宣言を行った。

田中誠太八尾市長らの祝辞の後、表彰式が行われた。消費者大会賞一般の部は一般財団法人関西電気保安協会（川邊辰也理事長）、会員の部は山﨑きみゑさんが表彰された。

休憩をはさみ、記念講演「健康をすすめる地域社会」が開かれ、松尾クリニック院長、松尾美由起さんが講師として登壇した。



第5回
ハンガーゼロチャリティ

飢饉で苦しむアフリカの人びとを支える

開催日：2017年9月17日（日）　午後4時開演
会　場：日本キリスト教団　枚岡教会
東大阪市高殿町12－34
TEL072(981)2817
出　演：東かおる（ヴォーカル）＆ジェシフォレスト（ギター）
「ハンガーゼロアフリカの活動報告（南スーダン報告緊急支援）」清家弘久（日本国際飢餓対策機構常務理事）
主　催：ハンガーゼロ・アフリカを応援する東大阪市内のキリスト教会
後　援：一般財団法人日本国際飢餓対策機構
(TEL072-920-2225)

きらくてい 喜楽亭

八尾に「本格寄席」オープン

名誉席亭は里見まさとさん
毎月、漫才・落語を中心に楽しいプログラムを提供いたします。

今後の開催予定
10月　昔懐かしい「歌声喫茶大会」
11月　「吉本ピン芸人大集合」

どうぞ喜楽においでください

住所：八尾市陽光園 2-5-4（JR八尾駅より徒歩3分）TEL：090-1677-7552（席亭・中川政雄）

連載小説

ウクライナを歩く ―― 86

小野元裕

ウクライナと日本は合わせ鏡

タラス君が神妙な表情をして私の目を覗き込んだ。

「あなたは日本人なので、心の底ではウクライナで起こっていることを他人事として受け止めているでしょう」

私はむっとして、切り返した。

「私はウクライナにどっぷり浸かって生活をしている。ウクライナには友人も多く、他人事などとは爪の先から思っていないよ」

申し訳なさそうな表情になってタラス君は謝る。

「すみません。あなたは半分ウクライナ人でしたね」

半分という言葉に引っ掛かりを感じたが、大人の対応をしよう。黙って、グラスを差し出した。

「ウクライナと日本に乾杯！」

マリアは胸をなでおろした。

タラス君が神妙な表情をして私の目を覗き込んだ。

「あなたは日本人なので、心の底ではウクライナで起こっていることを他人事として受け止めているでしょう」

私はむっとして、切り返した。

「私はウクライナにどっぷり浸かって生活をしている。ウクライナには友人も多く、他人事などとは爪の先から思っていないよ」

申し訳なさそうな表情になってタラス君は謝る。

「すみません。あなたは半分ウクライナ人でしたね」

半分という言葉に引っ掛かりを感じたが、大人の対応をしよう。黙って、グラスを差し出した。

「ウクライナと日本に乾杯！」

マリアは胸をなでおろした。

向かおうとしているのかマリアは目を見開いて聞いている。タラス君はマリアに大丈夫というサインを視線で送ってから核心に迫った。

「野獣を前にして丸腰で勝てるわけがありません。日本は早く改憲し、身を守る準備をしなければなりません。ウクライナは世界の口車に乗せられて核武装を放棄したばかりにこのざまです。日本はウクライナから学ぶべきです。チェルノブイリと広島・長崎・福島、クリミアと北方領土。ウクライナと日本は地球の裏表に存在しますが、まさに合わせ鏡なのです。もはや、改憲の議論をする時間さえないのです。世界的な地獄絵はすぐ目の前に迫っています」

ウクライナの青年から発せられたまっすぐな言葉が胸に突き刺さった。心のモヤモヤが晴れ、ウクライナの大地で日本人としての自覚に目覚めた。

タラス君は一息置いて続けた。

「8月29日早朝、北朝鮮の弾道ミサイルが北海道上空を飛びましたね。さらにICBM搭載用の水爆実験が成功したというではありませんか」

話がどこへ

大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会

今年の協奏曲（コンチェルト）と交響曲（シンフォニー）は2人の作曲家が苦しみぬいて完成させた重厚な超名曲
■出演
指揮：垣内悠希
独奏：及川浩治（ピアノ）
管弦楽：大阪フィルハーモニー交響楽団
■プログラム
・グリンカ／歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
・ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18
・ブラームス／交響曲第1番 ハ短調 作品68
※プログラムは変更する場合がございます。予めご了承ください。

12月2日(土)
15：00開演
プリズムホール(八尾市文化会館)大ホール

■入場料
全席指定・税込
SS席…6,000円、S席…4,500円／割引3,600円プリズムクラブ4,050円
A席…3,000円／割引2,400円プリズムクラブ2,700円 B席…2,000円
フレッシュシート25…1,000円フレッシュシート18…500円

PRISM HALL 八尾市文化会館
チケットのお求め お問い合わせ
プリズムホールチケットカウンター ☎072-924-9999
プリズムホールウェブサイトチケット http://prismhall.jp/

サンコーではお客様目線に立ち、品質・施工・ご予算に無駄のないプランをご提案します。
キッチン・トイレ・バス・洗面のリフフォームはもちろん、畳の表替えや、外装・耐震補強など、お家のあらゆるご相談に応じます。
サンコー物産株式会社
本社 〒550-0015 大阪市西区南堀江4丁目33番29号
E-mail：info@sankobussan.co.jp
http://www.sankobussan.co.jp/
お問い合わせはお気軽に TEL.06-6533-1271
東京営業所 TEL.(03)3375-1015 FAX.(03)3374-0378
名古屋営業所 TEL.(052)409-3093 FAX.(052)409-3094
大阪営業所 TEL.(06)6533-1271 FAX.(06)6543-0914
和歌山営業所 TEL.(073)451-9004 FAX.(073)451-9076
福岡営業所 TEL.(092)511-5923 FAX.(092)511-5917

栄養補助食品
天然素材100%使用
グリーンミネラル
自然の微量元素がいっぱい
スギナ　ヨモギ　モロヘイヤ
粒タイプ 100g
¥3,240（税込）
（有）ライヴグリーン
TEL 072-923-5517

第5回世界に羽ばたけ『夢』スピーチコンテスト
支援金額：120万円
【本選開催日時】平成29年10月15日(日) 13時30分～17時
本選開催場所：大阪商業大学ユニバーシティホール蒼天
住所：大阪府東大阪市御厨栄町4-1-10
主催：一般財団法人青少年夢応援隊
協賛：株式会社サンクレスト
後援：大阪府、東大阪市
公式サイト：http://yumeouentai.com

【開催趣旨】
将来の夢や目標があるが、経済的支援を必要とする若者が自身の「夢」をテーマにスピーチを行い、受賞者を選定、支援金権利を授与いたします。
【応募資格】
大阪在住または在学・在勤の16歳以上25歳までの青少年（1992年4月2日～2002年4月1日生まれの方）

【出場者一次選定】
作文を基にスピーチコンテスト本選出場者10名を選考いたします。
①公式サイトより「出場申込書」をダウンロードし、必要事項を記入
②「夢」というテーマで作文を書いていただきます。
また、受賞した際の支援金の使途も記載ください。
※原稿用紙（400字詰め）にて3枚まで
※手書き、パソコン等問わない
③応募方法：「出場申込書」と「原稿」を併せてメール又は郵便でお送りください。
※「出場申込書」と「原稿」はHPよりダウンロードしてください。
※メールを送る際の件名は「スピーチコンテスト応募」としてください。
④送り先：郵送の場合　宛先：大阪府東大阪市南上小阪12-42 一般財団法人青少年夢応援隊　スピーチコンテスト企画係宛
メールの場合　info@yumeouentai.com
問い合わせ☎06-6725-0511
⑤原稿締切：平成29年8月31日（木）必着

東大阪の企業　株式会社サンクレストが応援しています